様式 D10

# 博士学位論文審査結果の概要

| | |
|---|---|
| ふりがな | おおわき　まきこ |
| 氏　名 | 大脇　万起子 |
| 学位の種類 | 博士（看護学） |
| 学位記番号 | 博第 14 号 |
| 学位授与年月日 | 平成２９年３月１８日(学位授与式の日) |
| 学位論文題目 | 軽中度知的障害児への看護師によるデイケアサービスの提案<br>―調理プログラムを手がかりとした看護師役割の検討― |
| 審査委員 | 主査　石川県立看護大学　教授　　牧野　智恵<br>副査　石川県立看護大学　教授　　大木　秀一<br>副査　石川県立看護大学　教授　　西村　真実子<br>副査　石川県立看護大学　教授　　今井　美和 |

## 審査結果の概要

2017 年 2 月 7 日(火)に審査および最終試験を行った。本研究の概要と審査結果は以下の通りである。

この学位論文は、青年期の軽中度知的障害児を対象に、熟練看護師による調理を介した看護支援を実施し、それによって児の社会性の変化や熟練看護師の関わりを分析し、医療的処置を常時必要としない知的障害者施設のデイケアサービスにおける看護支援のあり方を検討した研究である。

第Ⅰ章・序論（研究の背景、文献検討)、第Ⅱ章・予備的研究（予備的研究 1、予備的研究２)、第Ⅲ章・本調査、第Ⅳ章・終章で構成されている。

知的障害児への詳細な介入研究がほとんどされていない状況の中で、第Ⅱ章の予備的研究 1 では、児が調理に取り組む能力の有無について、過去の研究（鈴木育子・大脇万起子　ほか、「発達障がい児への支援　生活能力実態調査から」、第 30 回日本看護科学学術集会、2010 年）を手がかりに統計的に再分析した。その結果、軽中度知的障害児は適切な看護支援が得られれば調理に取り組むことが十分に可能だと判断した。次に、児が調理に対してどの程度の興味を持つのか、また調理を介した支援の意義を明らかにするために、予備的研究 2 を実施した。1 名の熟練看護師が補佐看護師と共に 2 名の軽中度知的障害児に対して、グループホームにおける 8 日間（1 泊 2 日×4 回）の居住生活での支援から、児の様子を詳細に分析することによって、児が調理に強い関心を持ち、調理だけでなく社会性も向上したという結果を導き出した。

予備的研究の結果を基に、本調査を実施した。本調査の目的は、軽中度知的障害児に熟練看護師による調理を手がかりとした看護支援を実施し、児の変化や熟練看護師の関わりの特徴を明らかにし、今後の知的障害者施設での看護師の支援内容の示唆を得ることである。10 名の児に対して、5 名の熟練看護師が調理を介した支援を行い、児の変化と熟練看護師の記録と討論の内容を質的に分析した。その結果、児は、調理スキルだけでなく社会的スキルの改善が図れることが明らかとなった。また、熟練看護師の実践内容を「看護姿勢」「看護視点」「看護技術」の側面から質的に分析し、デイケアサービスにおける看護支援のあり方を提案した。

知的障害児に対する看護師独自の支援内容やそれに伴う児の変化を明らかにした研究はなく、今後、知的障害者施設で働く看護師の看護実践の指針となり得る研究であることを審査委員 4 名全員が確認し、博士論文として妥当で、高く評価できると一致した。但し論文全体の論理的記載に不十分な部分があること、結果のカテゴリー名に再考の余地があったため、再考、加筆、修正を求めた。2 月 13 日(月)に再提出後、審査委員全員が修正を確認して、本審査および最終試験に合格と判断した。